

T₇₉ 最初にどんなことを書くか。つぎにどんなことを書くか、というふうを考えて。

時間は、今から10分程度で頑張ってください。(机間を巡り指導)(組み立て表つくり12分)

- こうしたらどう？
- すくなかったからな——。
- ふやすといいよ。
- ぜんぶかかなくていいよ。
- このことは、まとまらないかな。など

T₈₀ はい、それではね。まだ書けてない人もあるかも知れませんがね。鉛筆を置いて、こっちを見て下さい。ほかの人のメモをみてみます、ね。(メモ表を写す)

あきら君、読んでください。

C₄₈ はい。(読む)

T₈₁ 「はじめのあいさつ」は、そのまま使うということですか。

C₄₉ だれに書くか、谷上君、はじめのあいさつ
○

T₈₂ はい、それから、1番から。

C₅₀ 1番、競技大会のこと。

C₅₁ 球技大会ですよ。

T₈₃ ああ、そうか球技ね。あとから直せばいいね。

C₅₂ 係をとりかえたこと。

T₈₄ うん、とりかえたことね。

C₅₃ スーパーカーの下じきをとりかえること。

T₈₅ うん。

C₅₄ 手をたたいた思い出。

T₈₆ うん、谷上君と前にやって遊んだことね。

C₅₅ 終りのあいさつ ○、日付 ○、電話番号

T₈₇ 電話番号書いてやるの。あんたの電話番号？
あ、そう、はい。

C₅₆ 日付け。

T₈₈ 日付け、大丈夫だったかな。ちゃんと正しく書いてあった？

C₅₇ 直したの。

T₈₉ 直したの？ うん。

C₅₈ うん。

T₉₀ あきら君は、こんなふう直して順序をとり

書き直すところをはっきりさせ、構想を立てる。

机間をまわって、ひとりひとりの子に助言していく。(評価しながら)特に構成の進まない子への助言が多い。ここでの評価が大切である。共同での作品研究で出てきた観点を理解しているか、それを組み立て表に具体化しているか、チェックしなければならない。さらに組み立て表をいくつかのタイプに分け、次の学習のための資料として取り上げることもおこなっている。

書き直すところの発表 ① (評価)

だれに書くか(あい手)		谷上君
(手紙を書く組み立て)	書くじゅんじよ	どんなことを書くか(なおすところ)
	はじめのあいさつ	→○
	○知らせること ○たずねること ○お礼 ○さそうこと	1. 競技大会のこと 2. 係をとりかえたこと 3. スーパーカーの下じきはやったこと。 4. 手をドンタバンタやった思い出のこと。
	手紙の中心になるところ	
	終わりのあいさつ	→○(でんわばんごう)
日付け	→○	

これは、簡単な例として出したものである。

「4の手をドンタバンタやった思い出のこと」ははじめの手紙には書かれていなかったことである。

また、日付けの位置を訂正し、電話番号を書き足している。内容も具体的になり整理されている。少ししか直していないようでも、この子なりの努力のあとがわかるのである。はじめと、終わりのあいさつなども工夫させたいところであり、個人的に指導したいところである。